

アメリカシロヒトリ

初夏と初秋の頃にサクラやプラタナスなど各種広葉樹の葉を集団で食害する毛虫（幼虫）。最大長約30mm。体は白い長毛で覆われ、地色は背中が灰色、下側が淡い黄色。小さなときは体は淡い黄色で、背中に黒点が2列に並ぶ。頭は黒い。

【学名】 *Thanatarctia imparilis*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , ヒトリガ科 (Arctiidae)

【生態】

幼虫は6～7月と8～9月に出現する。小さなときは数百頭の集団を形成し、糸を張り巡らし巣をつくる。成長すると巣から離れ、単独で加害する。

樹皮の割れ目など隙間に入って、体毛の混ざったうすい繭を作り、繭の中で茶色の蛹になる。

成虫の出現時期は春と夏。雌成虫は約500個の卵を葉裏にまとめて産み付ける。

【被害と防除】

同じ木が続けて激しい食害を受けると樹勢が低下したり、木が枯れるといわれている。

幼虫集団を見つけたら枝葉ごと取り除いて駆除する。幼虫いるところは葉がまとまって枯れているので発見しやすい。体毛が皮膚に刺さることがあるのでゴム手袋をすること。

農薬による駆除が必要と判断される場合はアメリカシロヒトリ用の農薬を幼虫に散布する。農薬は取扱説明書に従って使用すること。薬剤散布にあたっては通行人や近くの住民等に十分配慮すること。

【その他】

この害虫は北米原産で、第2次大戦直後に米軍貨物について東京に侵入したと推定されている。発生地は従来、本州の東西南部以南に限られていたが、近年北上している。北海道では2000年に函館市内の街路樹に発生し、新聞で報道された。同地では2001年にも発生が確認されており、定着したようである。

/

北海道立林業試験場・緑化樹センター

アメリカシロヒトリ hitoriga/amerika/

kaisetu.htm

「文章」原秀穂，北海道立林業試験場，2001/8/21.